

「iPad は電気羊の夢を見るか」



拝復 一ヶ月のご無沙汰でした。桜の花はあっという間に過ぎ去り、今は見事に新緑
 貌しました。この移り変わりが本当に「ドラマチック」で見ているものを飽きさせません。こうした繊細
 な季節の移り変わりを簡単に実感できるというのはいい国に生まれたのだ、と実感します。自然はいいの
 ですが、**政治は^^**。私はかなりの民主党シンパなのですが、さすがにちょっと・・・もちろん、政
 権交代で多くのことが大きな舵を切っています。先日この NL でも触れた事業仕分けもその一つです。普
 天間基地をめぐる右往左往しているようですが、米国に対してもっと思い切ったことをいえばよいのに、

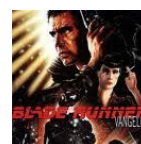
訓練基地の移籍だけですよね。どうも分かりにくい→



と感じます。「**沖縄はこれ以上無理。グアムでお願いをしたい**」 たったこれ
 だけです。米国は表面上は No というでしょうが、本質的にはあまり意味を持ちません。日本に従軍する
 米軍はすでに十分な規模と有事の対処が可能なのです。グアムがいやだと言っているのは「海兵隊」と「陸
 軍」の鞆当です。こんなことにまともに付き合っているほうがおかしい、と感じます。米国追従の政治を
 見直す、と言いながら実は更なる追従を繰り返しているように見えます。ちょっと変だよなあ^^;

さて今回お題ですが「iPad は電機羊の夢を見るか」とちょっとひねってみました。こ
 の表題を読んでぴんと来た人は SF 小説のファンですね。FK ディックの「アンドロイドは電気

名作です。何回見てもそう思います。→



羊の夢を見るか」をもじりました。映画「ブレード・ランナー」の原作と言ったほう
 が通りがいいかもしれません。映画の中ではアンドロイド(見た目は完全に人間のロボット)が主
 役です。彼らは感情を持ち、夢を見たりすることがあるのだろうか。名作です。



←なぜアップルにしかできないんだろう。不思議です。

さて、iPad です。大変な騒ぎになっています。米国では iPhone を上回るペース
 で売れ続けています。ブログをご覧頂いている方はご存知ですが、私も予約をしました。到着は
 5月28日の予定。久々にわくわくしています。この iPad ですが、米国ではキンドルと熾烈な
 競争をしています。電子書籍の分野です。キンドルは電子書籍専用のタブレット、一方の iPad
 は携帯と PC の間、つまり読書だけではなく様々なことが可能な汎用タブレットです。

ここで私は衝撃的な本に出会いました。佐々木俊尚さんの「電子書籍の衝撃」(本はいかに崩



←ここでは触れませんが、日本の出版界がなぜだめになったかの分析も秀逸です。

壊し、いかに復活するか?) ディスカヴァー21 新書 1100 円(税別)です。佐々木さんは今、新進気鋭の IT ライターであり、最近ではテレビなどでも IT の評論家として著名です。わたしもかつて、この NewsLetter で「WEB3.0」を書いたときに佐々木さんの「インフォコモンズ」(佐々木俊尚著 講談社 1300 円(税別))から多くのヒントや教えをもらいました。また先日 NL で「FREE」を執筆したときにはやがて多くの書籍は電子版に移行するだろう、と述べました。

たとえばこの「FREE」と言う本は1800円(税別)です。

著作権料(300 円) + 印刷費 + 流通費 + 出版社の利益 = 1800 円

これが、電子書籍に移行した際には

著作権料(300 円) + マイクロペイメントの手数料(100 円) = 400 円

に変わってしまうのです。印刷も流通もまったく必要がありません。

まず、米国での電子書籍の現在の状況を振り返ってみます。



←実際に軽い。しかし暗いところでは読めない

アマゾン・キンドル が圧倒的なシェアを握っています。ハードウェアとしては **300 グラム**。普通のモバイル PC が約 1 k g ですからその軽さはお分かりいただけると思います。このメディアが画期的だったのは

- ・ PC を必要としないこと(キンドルでは通話はできませんがケータイ機能がついています)
- ・ 本体が安い(日本円にして 22,000 円前後)
- ・ 膨大な数の書籍が購入できる(この 3 月時点で 42 万点)
- ・ 本の価格が安い 30 ドル前後が普通なのですが、アマゾンでは約 10 ドルで買えます
- ・ 電池のもちが非常によい(使い続けて 3 日は充電の必要がない)バックライト液晶がないためです。

こうした背景を元に英語圏で 300 万台を売り上げています。しかし、英語圏の本の読者は 14 億人といわれます。まだまだ普及の余地は膨大にあります。



一方、米国で発売からわずか一月で 100 万台を売り上げた iPad はどうでしょう

- ・ 汎用機としての魅力 PC とケータイの間に位置します。電子書籍専門ではないのです。(フルカラーで動画も同時に扱うことができます)

- ・ iPhone をベースにしている これまでに開発された iPhone のソフトがそのまま使えます。
- ・ iPhone ユーザーは全世界で 3000 万台 このうち 1/5 が iPad を購入したとすると・・・^^; 弱みもあります

- ・ **700 グラム(ちょっと重い)、電池が 10 時間しか持たない**
- ・ お値段がちょっと高い。一番安いバージョンでも 4 万円

この先、「電子書籍」での戦いに勝利する条件は何でしょうか？



←駄洒落です。流して読んでください^^;

答えは**プラットフォーム**です。読者が読みたいと思う本がそろっていて簡単

に購入することができる仕組みです。佐々木さんはこの状況を「アンビエント」と表現しています。無理やり日本語にしたら「どこでも、何でも、いつでも、誰にでも」でしょうか。

非常に分かりやすい例があります。「音楽」です。いまや音楽において CD はメインのメディアではなくなっています。その証拠に年間 100 万枚以上売れる CD が激減しています。もうお分か



←発売当時はよく分からなかったけど。まさに音楽における革命だったのです。

りですよ。iPod を中心にした音楽配信サービスが猛烈な勢いで普及しています。ここでの勝者はアップルです。アップルは何をしたのか。**iTunes を進化させた**のです。iTunesこそが音楽やゲームを配信するプラットフォームなのです。アンビエント化した音楽は「どこでもドア」です。私が使っている iPod Touch には CD にして 100 枚以上の音楽が入っています。その日の気分や用途で聞く曲を自由自在に選ぶことができます。もはや、今日の外出に、どの CD を持って行こうかなんてことは考える必要はありません。また、アルバム単位で

こんな歌が流行るなんて。誰が買っているんだろうって、俺か？(笑)←



なく一曲単位で購入することができます。ついさっき**「ずっと好きだった」** 斉藤和義

をダウンロードしましたが 150 円です。CD だったら全曲を聴けますが 2500 円はかかる。

つまり iTunes のようなプラットフォームを構築することができた企業が勝利者となるのです。書籍の世界ではどこが勝者となるのか？

個人的にはこういうノウハウ本は嫌いなので読んだことがありません→



いくつかの現象を見ていきましょう。「七つの習慣 ―成功には原則があった」で知られる S・コヴィーさんは過去の電子ブック権を出版社からアマゾンに移しました。何がポイントか。書籍の世界でも常に注目されるのは「新刊」です。広告され、棚割りの最優先権は常に新しい本です。ところが、電子書籍の世界では棚割を考える必要がまったくありません。「新刊」と「既刊本」の間に差がなくなります。音楽の世界でも同じです。元 ROXY MUSIC のブライアン・



←ROXY MUSIC めっちゃかつこよかったです

イーノは「もはや音楽に歴史と言うものはないと思う。これはデジタル化がもたらした結果のひとつで、すべての人がすべてを所有できるようになった。私の娘にしてみれば「ピンクフロイド」は過去の音楽ではない。」と語ります。

この iTunes の世界を作り上げることができたものが「電子書籍」の世界の勝利者となります。

- ①多様なコンテンツが安く豊富に揃っていること
- ②使い勝手がよいこと (iTunes を使ってみれば分かります。ストレスフリーです)
- ③アンビエントであること「どこでも、何でも、いつでも、誰にでも」

現在の状況は先行しているキンドル・アマゾン連合が圧倒的に有利な状況です。今回は後発のアップルは著作権者に非常に有利な提案をしています。最終的には体力勝負になるのでしょうか。




さらに Google が密かに (というか堂々と) 「検索」を武器に殴り込みをかけようとしています。Google Book です。ハーバード、スタンフォード、慶応大学の図書館の所蔵している本を OCR によってテキスト化しました。その数、**700 万冊**。いつもながら google の構想の大きさには驚かされます。彼らは「検索→アドワーズ」と言う広告モデルを狙っています。

さて、こうした電子書籍化が進んでいくうちに未来にどんなことが起きるのか。佐々木さんは「セルフ・パブリッシング」が実現されると予想します。これまで書籍を出版するというビジネスは出版社に独占されてきました。自費出版は可能ですが、流通に乗りません。

しかし電子書籍の世界ではすでに始まっています。「アマゾン・デジタル・テキスト・プラットフォーム」がそれです。登録の費用はゼロ。プロもアマチュアも電子ブックに関しては同じくキンドルストアに並びます。定価とした値段の 70%が著者に振り込まれます。もちろん著名なプロの本が売れるでしょうが、アマチュアにもまたこれまで出版社に何らかの理由で相手にされなかったような人にも平等に機会が提供されるようになるのです。この NL も出版？ (笑)。

そんなことを言っただって、知らない人の本は選びようがない・・・
ここが電子書籍の出番なのです。人は何らかの目的を持って書籍を購入します。自分の興味がある本から探すはずで、「検索」これほどその目的にあった手法はありません。しかも立ち読みと同様にその本の一部を閲覧することが可能です(アマゾンの一部でこのサービスを始めています)。さらにその上で、複数の読者の感想を見ることも可能です。リアル本屋のように立ち読み

 ←本日に翌日に届くもんなぁ便利。でも電子書籍なら即時
みができない では書評は重要な判断基準となります。

同様のモデルが「外食」の世界ではすでに実現しています。価格コムが運営する「食ブログ」



←一人ひとりのコメントと自分の感想を重ねると結構面白いですよ

です。プロの評価ではなく、読者の一人ひとりが自分の感想を点数化して投稿します。写真を貼り付けることもできます。ここで重要な鍵があります。それは「食ブログでは自分と舌や好みが似ているお気に入りのレビュアーを見つけることができれば、その人の評価がミシュランよりも自分にとっては正しいと言うこと」です。これがネットの世界ではより簡単になります。

しかし、これを「検索」によって探すことはできません。必要なのはソーシャル・ネットワークと呼ばれる仕組みです。ブログであり、SNS であり、ツイッターです。

キンドルや iPad のような電子ブックにふさわしいタブレット
タブレット上で本を購入し、読むためのプラットフォーム
プラットフォームの確立が促す、セルフパブリッシング
コンテキストを介して、本と読者が織り成す新しいマッチングの世界

さあ、楽しい読書の時間です。佐々木さんの「電子書籍の衝撃」は近年読んだ本の中でも秀逸な一冊です。ぜひ、お買い求めの上ご一読をお勧めします。WEB3.0 がわかります(そういえばこの言葉最近聞かなくなりましたねえ)。

さて、今回は 6 月 1 日。私の手元には iPad が届いているはずで、今回はそのレポートかな。ではでは～(^ ^) /～～～

相変わらず厳しい状況が続いております。一声お願いします。m(_)_m

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>

(実は今号から基本の文字級数を 9 ボから 10 ボに変えました。いかがですか?)